

北林 雅洋

特任教授

研 究 業 績

2025年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書（単）	戸坂潤全集未収録論文集、こぶし書房	2016年
著書（共）	翻刻 久米通賢史料集—近世讃岐のシビル・エンジニア—、現代思潮新社（松村雅文、木原溥幸、西川桂子、芳地智子）	2025年3月
	科学史事典（「科学教育史」担当）、丸善出版（日本科学史学会編）、366-367頁	2021年5月
	理科教育をとらえ直す（担当：はじめに、第6章 実験の役割は仮説の検証だけではない、第7章 「科学的」は多くの科学者による承認を前提としない、第8章 教育の目的論は学ぶ目的を論じるのではない）、本の泉社（松本一範、篠原渉、松村雅文、寺尾徹）、1-89-126頁	2019年2月
	創る—2 領域カリキュラムで子どもが変わる！教師が変わる！—（担当：まえがき）、東洋館出版社（磯田文雄序、香川大学教育学部附属高松小学校著）	2017年1月
	理科教育（担当：第9章 地球の特徴が捉えられる宇宙の学習）、一藝社（三石初雄、中西史ほか）、135-145頁	2016年9月
	自然科学教育の発展をめざして—田中實の成果に学ぶ—（担当：田中實の科学史研究と科学教育目的論）、同時代社（東京科学研究所編、松井吉之助、中村啓次郎、長谷川純三ほか）、211-218頁	2012年12月
	唯研ニュース 復刻版、不二出版（渋谷一夫）	2012年2月
	もっと知りたい！久米通賢（担当：砂糖車の改良と普及、坂出塩田の開発と通賢の工夫）、財団法人鎌田共済会（久米通賢研究会編、松村雅文、木原溥幸ほか）、52-57・62-65頁	2010年12月
	教師もたのしい小学理科授業 なるほど！5年生（巻担当）、ルック（三石初雄、田中実ほか）	2008年1月
	人口と教育の動態史—一九三〇年代の教育と社会—（担当：第9章 「科学的精神」論から「生活の科学化」へ）、多賀出版（木村元、前田晶子ほか）、503-538頁	2005年2月
	自然科学と教育（担当：10章 自然科学教育論の再構成のために—二元論的な教育のとらえ方の克服—）、創風社（岩田好宏、三石初雄、島崎隆ほか）、152-166頁	2001年7月

	科学史概論（担当：7.3 環境問題と20世紀科学）、ムイスリ出版（渋谷一夫、河村豊、小林武信、徳元琴代）、176-183頁	1997年4月
	英文で読む大科学者のことばⅡ 物質と生命をめぐる（担当：9 地球の歴史をとらえる、10 人間と自然）、講談社（江上生子、奥山修平、梶雅範ほか）、148-163・176-180頁	1985年4月
論文（単）	中内敏夫の公害学習現地調査の実際、香川大学教育学部研究報告（第12号）、21-23頁	2025年3月
	日教組の総合学習論の発端、香川大学教育学部研究報告（第12号）、25-28頁	2025年3月
	学校防災の諸課題—東日本大震災津波被災小・中学校の現地調査に基づいて—、香川大学教育学部研究報告（第11号）、75-83頁	2024年9月
	唯物論研究会の研究活動と戸坂潤、季報 唯物論研究（第167号）、12-21頁	2024年5月
	戸坂潤の「技術」とその意義、季報 唯物論研究（第165号）、82-93頁	2023年11月
	地球化学の成立と第一次世界大戦—『Victor Moritz Goldschmidt: Father of Modern Geochemistry』の不十分な点、香川大学教育学部研究報告（第9号）、63-69頁	2023年9月
	防災・減災に向けて子どもたちが考え提案する授業、理科教室（第65巻8号）、28-33頁	2022年8月
	授業づくりに欠かせない評価とは、理科教室（第64巻10号）、63-69頁	2021年10月
	教科専門と教科教育の協働における教育学の役割、日本教師教育学会年報（第29号）、54-62頁	2020年9月
	戦時下「国民生活科学化協会」の活動、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第67巻1号）、11-20頁	2017年3月
	『科学主義工業』1941年5月臨時増刊号の戸坂潤論文、IL SAGGIATORE（第41号）、58-60頁	2014年5月
	戸坂潤が「生産を目標とする科学」において試みたこと—「物の生産」に基礎を置く科学観の徹底—、科学史研究（第269号）、67-83頁	2014年4月
	防災・減災で実際に機能する「科学的」への転換、理科教室（第57巻1号）、60-63頁	2014年1月
	日本の「地震予知研究計画」における科学と政治の関係、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第63巻2号）、29-38頁	2013年9月
	生活科の自然遊び・ものづくりのおもしろさとは、日本理科	2012年12

	教育学会四国支部会報（第 31 号）、41-42 頁	月
	より人間らしくその人らしくなるための理科—田中実の科学教育目的論が提起したこと—、理科教室（第 55 巻 11 号）、74-79 頁	2012 年 11 月
	田中実の科学教育目的論の到達点、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第 62 巻 2 号）、67-74 頁	2012 年 9 月
	戦時下日本で刊行され続けた科学啓蒙書、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第 62 巻 1 号）、49-65 頁	2012 年 3 月
	戸坂潤が最晩年にペンネームで発表した論文、科学史研究（第 260 号）、194-198 頁	2011 年 12 月
	小学校の地震・火山学習で大切にしたいこと—防災・物質循環・多様性をふまえて—、理科教室（第 53 巻 12 号）、14-19 頁	2010 年 12 月
	環境問題における科学の不足・無視・暴走と技術（試論）、IL SAGGIATORE（第 39 号）、92-95 頁	2010 年 11 月
	久米通賢が考案した砂糖車の車石の規格、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第 60 巻 2 号）、59-74 頁	2010 年 9 月
	地球環境問題に関する授業づくりの考え方—「最後に総合的に」ではなく「いろいろな機会に」—、理科教室（第 51 巻 1 号）、19-26 頁	2008 年 1 月
	戸坂潤の『全集』未収録文献 22 編の発見、科学史研究（第 239 号）、189-190 頁	2006 年 9 月
	他教科の教科書検討をすすめるための視点と理科の役割、理科教室（第 49 巻 2 号）、8-13 頁	2006 年 2 月
	「子どもの意見表明権」と評価論の課題、香川大学教育実践総合研究（第 11 号）、83-87 頁	2005 年 9 月
	「生活科研究」と授業改善、香川大学教育実践総合研究（第 11 号）、141-144 頁	2005 年 9 月
	第 2 次大戦下日本の「生活科学新書」について、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第 55 巻 2 号）、43-53 頁	2005 年 9 月
	私の地球観とこれを教えたい—「物質循環」という視点から見た地球—、理科教室（第 48 巻 2 号）、14-21 頁	2005 年 2 月
	国民学校理科の成績考査における矛盾—目標に準拠した評価の基礎にある科学観の検討—、日本理科教育学会四国支部会報（第 23 号）、7-8 頁	2004 年 12 月
	学校教育と科学の社会的機能、日本の科学者（第 37 巻 11 号）、18-19 頁	2002 年 11 月

	科学史教育の到達目標—科学教育論の視点から—、教育目標・評価学会紀要（第10号）、48-55頁	2000年10月
	教育における「総合」とは（下）、理科教室（第43巻5号）、66-71頁	2000年5月
	教育における「総合」とは（上）、理科教室（第43巻4号）、50-55頁	2000年4月
	地球温暖化問題を考えるための気候の学習、理科教室（第42巻7号）、21-26頁	1999年7月
	到達目標と「学び」について—高校教育の現場を通して考える—、教育目標・評価学会紀要（第8号）、10-19頁	1998年10月
	「関心・意欲」と到達目標の関係について—戸坂潤の認識論を手がかりに—、教育目標・評価学会紀要（第7号）、40-46頁	1997年10月
	「親学力観」の論理を問う、理科教室（第38巻1号）、24-31頁	1995年1月
	F. W. Clarkeの地球化学的研究の課題について、科学史研究（第168号）、215-217頁	1989年3月
	1920年代における地球化学成立の過程とその要因に関する研究、修士論文（東京工業大学）	1987年2月
	V. M. Goldschmidtにおける地球化学確立過程、東京工業大学人文論叢（第11号）、139-148頁	1986年3月
論文（共）	「初等授業研究」の成果と教員養成の課題、香川大学教育実践総合研究（第47号）、小方朋子・杉野本勇氣・佐藤明宏・神野幸隆・吉澤樹理・米村耕平、65-78頁	2023年9月
	総合的な学習の時間に「個人追究」を実施することの妥当性と有効性、香川大学教育学部研究報告（第7号）、岡田涼・三宅岳史、41-50頁	2022年9月
	東日本大震災津波被災小・中学校の実地調査に基づく避難のあり方に関する研究、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第66巻2号）、大西歩実、33-70頁	2016年9月
	理科以外の小学校教科書にみられる理学的内容の検討と活用、香川大学教育学部研究報告 第Ⅱ部（第61巻1号）、末廣喜代一ほか、9-57頁	2011年3月
	実感を伴った理解を促す「綴る」ノート指導、理科の教育（第683号）、濱元員代、13-15頁	2009年6月
	教育調査としてのTIMSS—学力評価論からカリキュラム評価論へ—、教育目標・評価学会紀要（第12号）、木村元・斎藤	2002年10月

	里美・平岡さつき、1-15 頁	
	TIMSS の学力観の検討—学力の国際比較とは何か—、東洋大学紀要 言語と文化（第 2 号）、木村元・斎藤里美・平岡さつき、1-33 頁	2002 年 3 月
	弘前市における降水の化学成分、天気（第 29 巻 8 号）、中谷周ほか、773-780	1982 年 8 月
その他（単）	学習指導要領における「学校や教師の裁量」の範囲と根拠、理科教室（第 67 巻 11 号）、94-95 頁	2024 年 11 月
	専門家の意見の聞き方、理科教室（第 67 巻 6 号）、90-91 頁	2024 年 6 月
	ALPS 処理水の海洋放出に関する数値の意味を考える、理科教室（第 67 巻 2 号）、94-95 頁	2024 年 2 月
	生徒指導提要の改訂と子どもの意見表明権、理科教室（第 66 巻 10 号）、94-95 頁	2023 年 10 月
	学習指導要領の「学習評価」、理科教室（第 66 巻 6 号）、90-91 頁	2023 年 6 月
	令和 4 年度文部科学省委託事業就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業 成果報告書	2023 年 3 月
	大川小学校に学ぶために欠かせない情報、理科教室（第 66 巻 1 号）、94-95 頁	2023 年 1 月
	教員養成の新しい必修科目「総合的な学習の時間の指導法」、理科教室（第 65 巻 9 号）、94-95 頁	2022 年 9 月
	『科学史事典』の刊行、理科教室（第 65 巻 4 号）、94-95 頁	2022 年 4 月
	令和 3 年度文部科学省委託事業就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業 成果報告書	2022 年 3 月
	教員免許状更新講習と研究成果の還元、理科教室（第 64 巻 12 号）、88-89 頁	2021 年 12 月
	教員免許更新制の行方、理科教室（第 64 巻 8 号）、92-93 頁	2021 年 8 月
	教育基本法と学問の自由、理科教室（第 64 巻 4 号）、94-95 頁	2021 年 4 月
	令和 2 年度文部科学省委託事業就職氷河期世代を対象とした教職に関するリカレント教育プログラム事業 成果報告書	2021 年 3 月
	東日本大震災に学ぶ、理科教室（第 63 巻 12 号）、88-89 頁	2020 年 12 月
	一斉休校と子どもの権利、理科教室（第 63 巻 8 号）、94-95 頁	2020 年 8 月
	特集まえがき 日本社会で常識にしたい自然科学的教養、日本	2020 年 5 月

	の科学者（第 55 巻 5 号）、3-4 頁	
	「各教科等の見方・考え方」で危惧されること、理科教室（第 63 巻 4 号）、94-95 頁	2020 年 4 月
	文部科学行政の時代認識、理科教室（第 62 巻 12 号）、88-89 頁	2019 年 12 月
	2 領域カリキュラムの試み、理科教室（第 62 巻 8 号）、94-95 頁	2019 年 8 月
	放射線副読本と 100 ミリシーベルト問題、理科教室（第 62 巻 3 号）、94-95 頁	2019 年 3 月
	久米通賢による坂出塩田築造の経緯および技術的・財政的・政治的基盤、2015～18 年度科学研究費補助金（基盤研究 C）研究成果報告書	2019 年 3 月
	「南海トラフ地震に関連する情報」（臨時）への対応、理科教室（第 61 巻 11 号）、94-95 頁	2018 年 11 月
	新学習指導要領と説明責任、理科教室（第 61 巻 8 号）、94-95 頁	2018 年 8 月
	学習指導要領と「科学的特性マップ」、理科教室（第 61 巻 5 号）、90-91 頁	2018 年 5 月
	教員養成の「改革」と学問、理科教室（第 61 巻 1 号）、94-95 頁	2018 年 1 月
	「子どもの意見表明権」の現在、理科教室（第 60 巻 10 号）、94-95 頁	2017 年 10 月
	科学と常識、科学史通信（第 430 号）、20-22 頁	2017 年 7 月
	教育行政の基本に立ち返っての議論、理科教室（第 60 巻 7 号）、92-93 頁	2017 年 7 月
	「ものづくり」と理科教育、科学史通信（第 428 号）、26-28 頁	2017 年 1 月
	社会的規制と理科教育、科学史通信（第 426 号）、18-20 頁	2016 年 7 月
	戸坂潤に学べ—科学とは、不確かさも含みこんだものだ（インタビュー）、図書新聞（第 3265 号）、1-2 頁	2016 年 7 月
	理科教育が向き合うべき「技術」、科学史通信（第 424 号）、8-10 頁	2016 年 1 月
	実験のおもしろさに依拠した理科授業づくり、科学史通信（第 423 号）、6-8 頁	2015 年 10 月
	平成 26 年度理数系教員養成拠点構築事業業務成果報告書	2015 年 3 月
	平成 25 年度理数系教員養成拠点構築事業業務成果報告書	2014 年 3 月

戦時下日本の「生活の科学化」運動の実態—国民生活科学化協会を中心に—、2011～13年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書	2014年3月
平成24年度理数系教員養成拠点構築事業業務成果報告書	2013年3月
生活と関連づける理科学習において見落とされてきたこと、日本理科教育学会全国大会発表論文集（第10号）、129頁	2012年8月
（書評）金森修編『昭和前期の科学思想史』、科学史研究（第261号）、60-61頁	2012年3月
戦時下の「生活の科学化」と戦後の理科教育、日本理科教育学会全国大会発表論文集（第9号）、137頁	2011年8月
実験とは何か、日本理科教育学会全国大会発表論文集（第8号）、286頁	2010年8月
理科教育の目的と科学観の関係、日本理科教育学会全国大会発表論文集（第7号）、90頁	2009年8月
「灰」に関する学習の必要性、日本理科教育学会全国大会発表論文集（第6号）、328頁	2008年9月
戦時下日本の科学論・技術論の展開に関する実証的研究—新資料の発掘と検討を通して、2005～07年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書	2008年3月
（書評）柴一実『戦後日本の理科教育改革に関する研究—アメリカ科学教育情報の受容と展開—』、科学史研究（第241号）、58-59頁	2007年3月
他教科の教科書と理科の教育課程、日本理科教育学会全国大会発表論文集（第3号）、301頁	2005年8月
科学史から考えるこれからの科学教育、理科教室（第46巻1号）、96-101頁	2003年1月
コペルニクスによる革新と彼の確信、理科教室（第45巻5号）、96-101頁	2002年5月
プラトン、アリストテレスの自然認識と社会認識、理科教室（第45巻4号）、96-101頁	2002年4月
人類の起源と科学・技術、理科教室（第45巻1号）、96-101頁	2002年1月
教育における「情報化」と科学史研究の役割、科学史研究（第219号）、168-170頁	2001年9月
地球化学と第一次世界大戦、理科教室（第44巻7号）、70-73頁	2001年7月
新学習指導要領と日教組『教育課程改革試案』、科学史研究	1999年12

	(第 212 号)、236-237 頁	月
	理科授業づくりにおける科学史の役割、科学史研究 (第 212 号)、239-241 頁	1999 年 12 月
その他 (共)	化学史事典 (「クラーク」「クルツェン」「ゴールドシュミット」担当)、化学同人	2017 年
	化学辞典 (第 2 版) (担当: クルツェン、ゴルトシュミット、モリーナ、ローランド)、森北出版	2009 年
	化学辞典 (担当: クラーク、ゴールドシュミット、ベルナドスキー、ビノグラードフ)、東京化学同人	1994 年
	岩波科学百科 (担当: クラーク、ゴルトシュミット)	1989 年
	平凡社大百科事典 (担当: ゴルトシュミット)	1988 年
口頭発表 (単)	日教組の総合学習論と公害学習、教育目標・評価学会第 35 回大会	2024 年 12 月
	久米通賢が高松藩への建白書において示した見積額の根拠、日本科学史学会第 71 回年会	2024 年 5 月
	教育評価と学習評価の関係—子どもの意見表明権をふまえて—、教育目標・評価学会第 33 回大会	2022 年 12 月
	理科の授業づくりにおいて「子どもたちがおもしろがる」に着目することの意義、第 55 回全国小学校理科研究協議会研究大会香川大会高松市立多肥小学校全大会・指導講評	2022 年 11 月
	成長発達権としての子どもの意見表明権と教育評価、教育目標・評価学会第 32 回大会	2021 年 11 月
	子どもの権利条約ってなあに?、さぬき市立長尾小学校教育講演会	2020 年 1 月
	初等授業研究の試みと成果、平成 30 年度日本教育大学協会研究集会	2018 年 10 月
	戦時下日本の防空体制と生活の科学化運動、日本科学史学会第 62 回年会	2015 年 5 月
	田中實の「労働としての学習」と板倉聖宣の「楽しい授業」、日本教育学会第 74 回大会	2014 年 9 月
	理科にも強い小学校教員の養成と香川 CST 事業、科学教育研究協議会第 61 回全国研究大会	2014 年 8 月